

# 大学開放に関する意識調査

——富山大学公開講座・公開授業受講者を対象として——

仲 嶺 政 光

(富山大学地域連携推進機構生涯学習部門准教授)



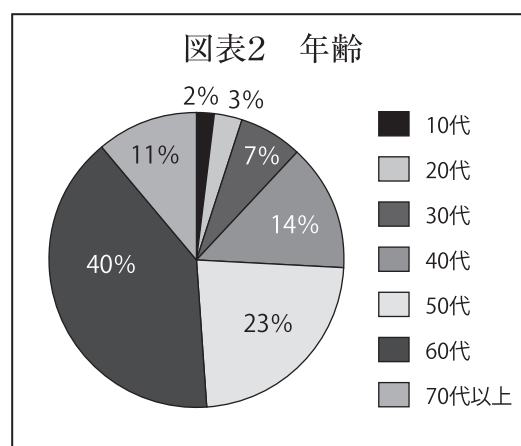
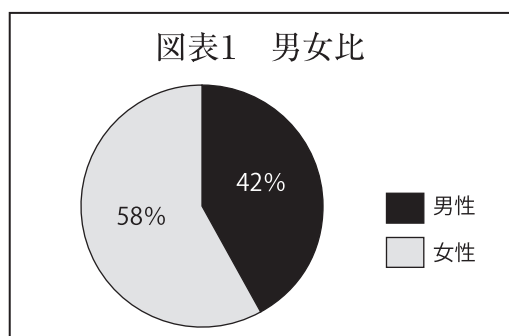
## 1. はじめに

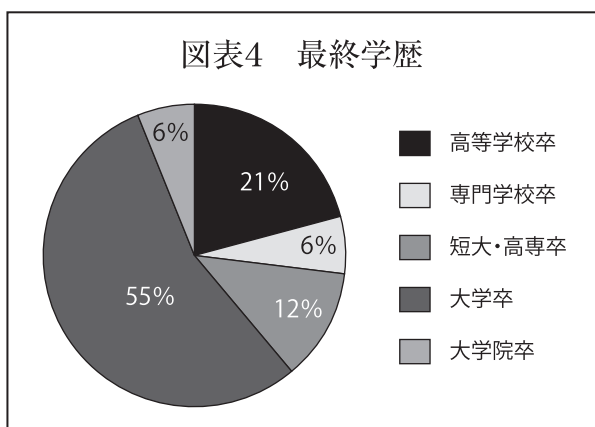
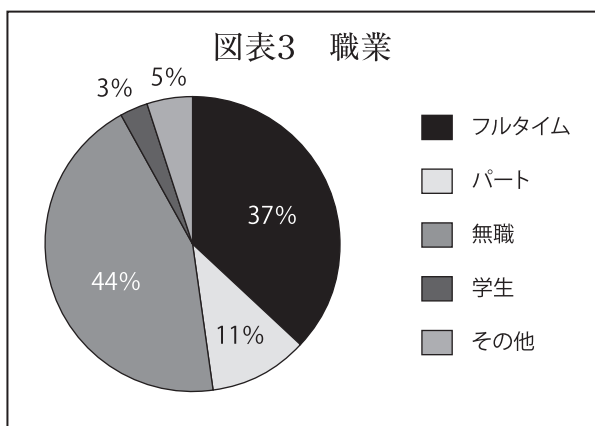
本調査は、2013年4月～2014年3月にかけて実施した、大学開放に関する意識調査である。調査対象は、2013年度に開講された富山大学公開講座、公開授業（オープン・クラス）の受講生である。彼らは、様々な生涯学習のための機会がある中で、自らの「学び」の場に大学を選択した人々である。どのような社会的背景を持ち、大学でどのような「学び」の意識や実践が展開されているのか。本調査では大学での「学び」の実態を受講生の側からとらえることを目的に、以下のような調査項目を設定した。①受講者の基本的属性、②現在の「学び」の意義、③受講の結果生じた効果、④受講内容についての理解・評価、⑤教育方法の好み、⑥今後大学開放に求める方向性、⑦社会人入学に対する考え、などである。

## 2. 調査の概要

2013年度の公開講座・公開授業の受講・修了者872人に対し質問紙を配布した。その結果、392人（回収率45.0%）から回答を得た。このうち、複数講座・科目への参加によりアンケートへの回答が複数回にわたった場合（「2回目」「3回目以上」）を除外し、最終的に調査対象者は257人（回収率29.5%）となった。

## 3. 基本属性



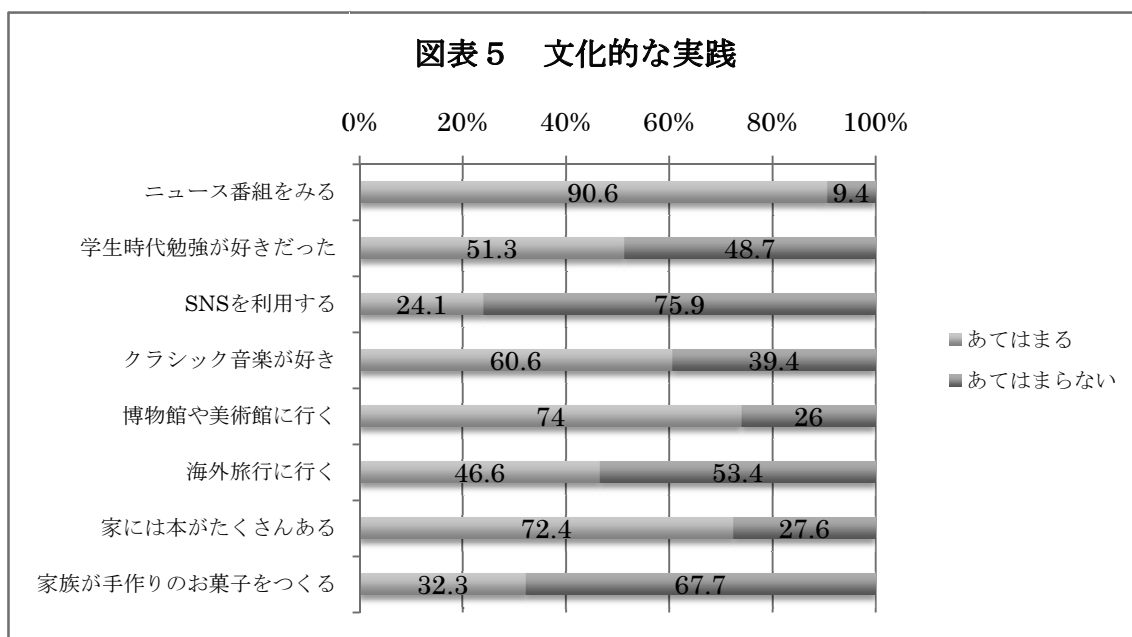


回答者の性別をみると、男性42%、女性58%となっている。年齢別にみると、60代(40%)、50代(23%)、40代(14%)の順に多くなっている。

回答者の職業についてみると、何らかの有職者(フルタイムまたはパートタイム)の割合が48%、無職・学生の割合が47%となっている。ほぼ半数近くが「働きながら」学んでいる。

回答者の最終学歴をみると、大学・大学院卒(61%)、短大・高専・専門学校卒(18%)、高等学校卒(21%)となっている。これを見ると、受講者にはやや高学歴傾向があり、大学の「再利用」とも言える実態がうかがえる。

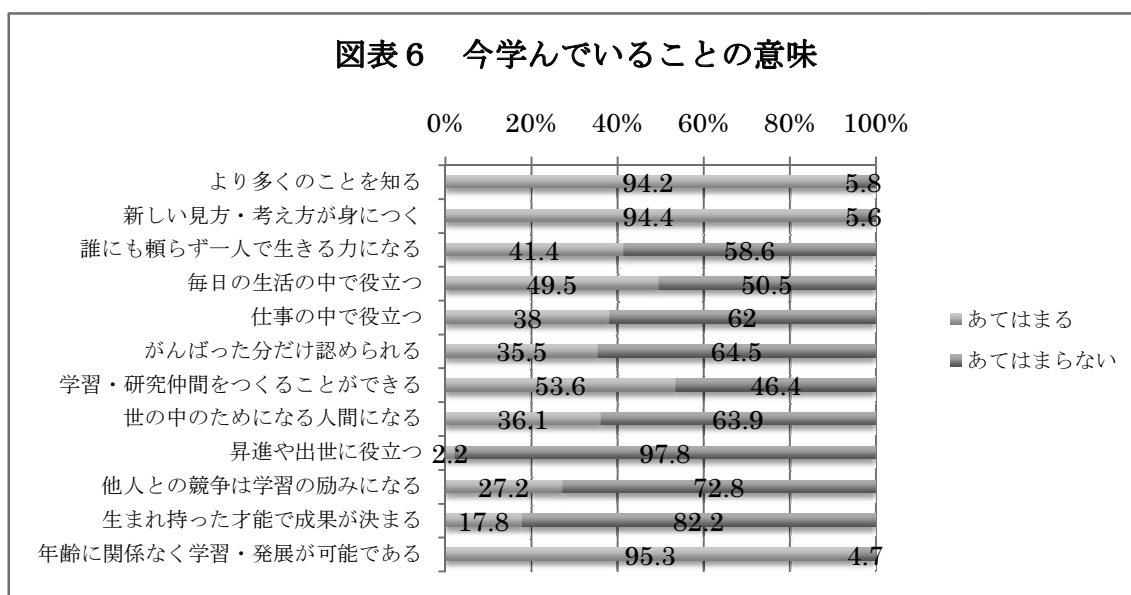
#### 4. 日常の文化的な実践



図表5は、回答者の文化的な実践状況<sup>\*1)</sup>をみたものである。この中で高い割合を示したものとしては、「ニュース番組をみる」(90.6%)、「博物館や美術館に行く」(74.0%)、「家には本がたくさんある」

んある」(72.4%)、「クラシック音楽が好き」(60.6%)などが続いている(以上は、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合算した数値であり、以下の図表でも同様である)。比較できるデータはここでは示せないが、回答者のこれらの習慣からは、彼らがほぼ知識層・教養層に属し文化的な実践が豊富であることをうかがわせるものである。

## 5. 今学んでいることの意味



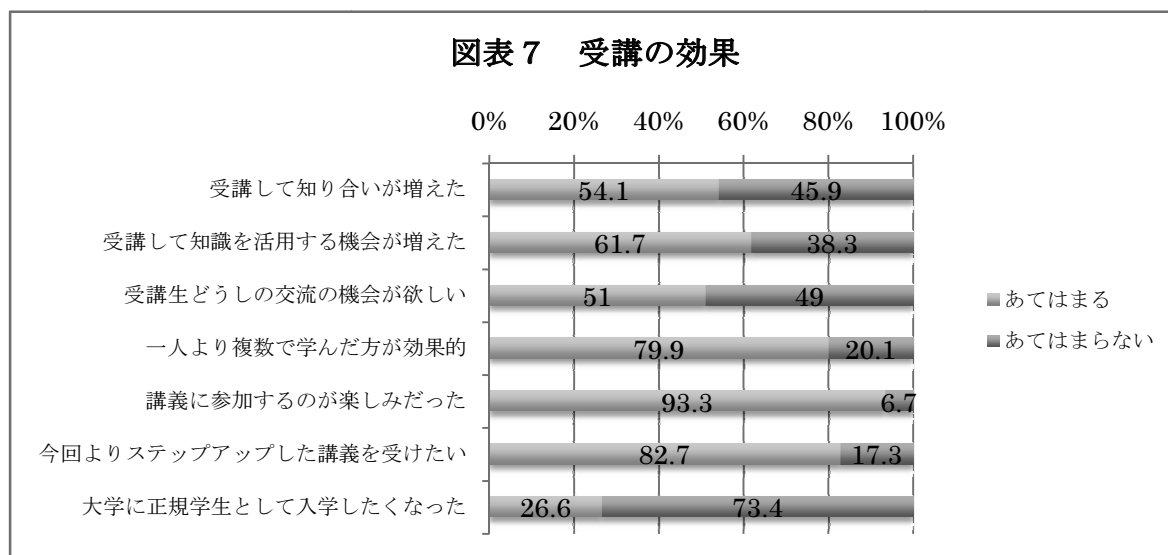
回答者が現在の「学び」についてどういう意味を感じているかをたずねたのが図表6である\*2)。高い割合を示した項目として、「年齢に関係なく学習・発展が可能である」(95.3%)がある。その対極的な項目として「生まれ持った才能で成果が決まる」(17.8%)は低い割合にとどまっており、自らの学習の可能性に対しかなり前向きな意識を持っていることがみてとれる。

また、「より多くのことを知る」(94.2%)、「新しい見方・考え方が身につく」(94.4%)というように、彼らにとっての「学び」が、知識の獲得や認識の進展に寄与している、と考えられている。

なお、「学習・研究仲間をつくることができる」という回答に「あてはまる」と回答した者が53.6%にのぼる点も興味深い。「学び」を通じて人的なネットワークの構築を指向する者が半数を超えているのである。

## 6. 講座・講義への評価

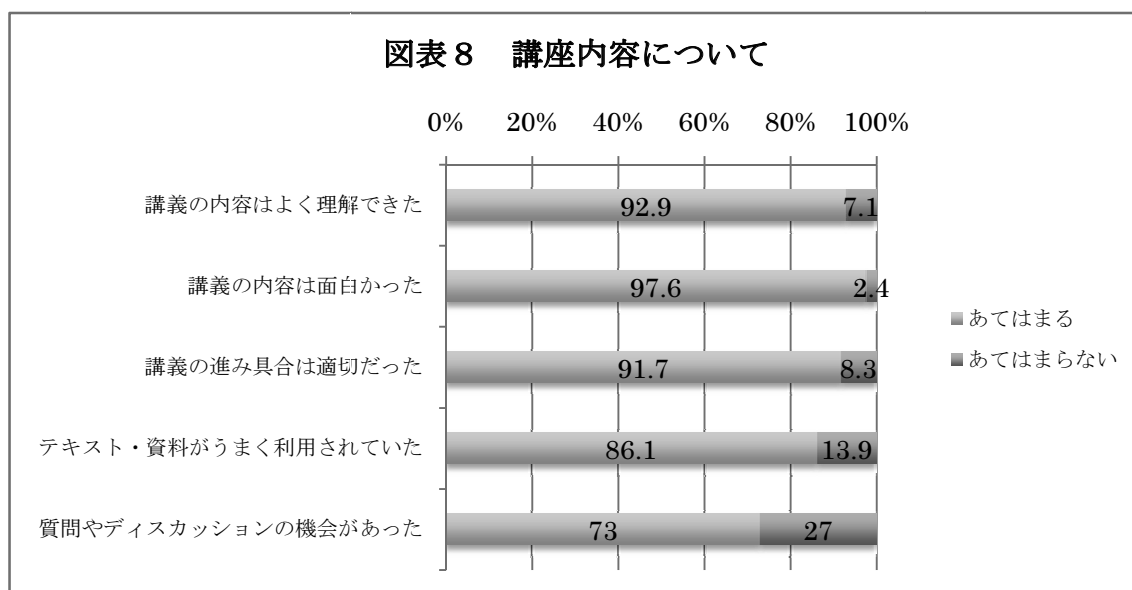
### (1) 受講による効果

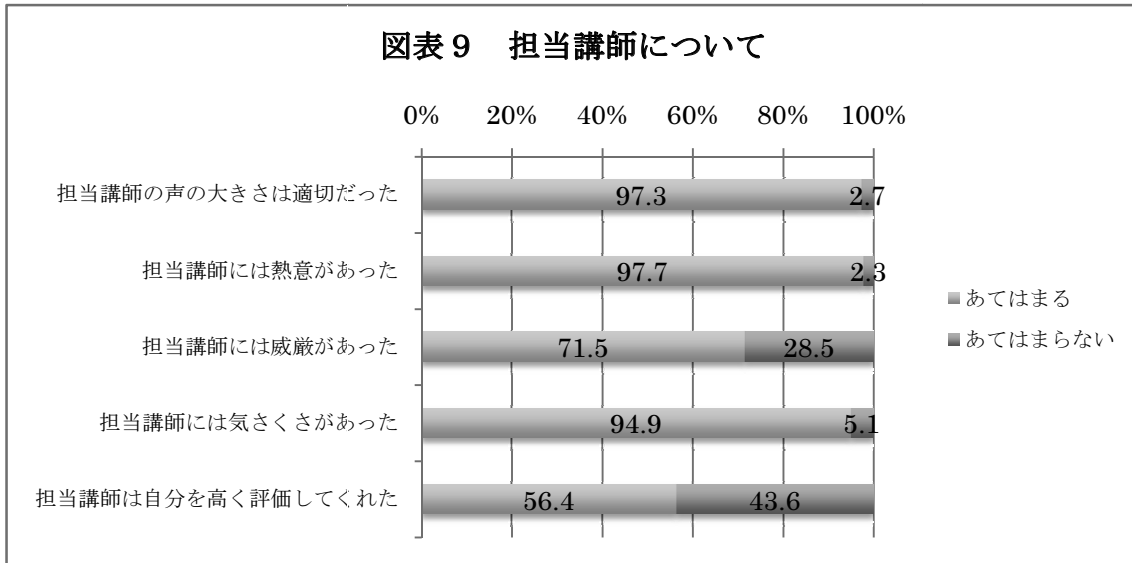


図表7は、講座・講義を受講したことによって生じた効果についての回答である。「講義に参加するのが楽しみだった」(93.3%)、「今回よりステップアップした講義を受けたい」(82.7%)など、前向きな受講状況がうかがえる。

この他、単に講座・講義を受講するだけでなく、他者との関わりが欲しいとの意見も多かった。「一人より複数で学んだ方が効果的」(79.9%)「受講して知り合いが増えた」(54.1%)「受講して知識を活用する機会が増えた」(61.7%)。とりわけ、「受講生どうしの交流の機会が欲しい」(51.0%)が半数を超えている点も見逃せない。受講生の「学び」が独学的狭さをのり越えて他者とのつながりを求めている点は重要である。

### (2) 講義内容と講師について

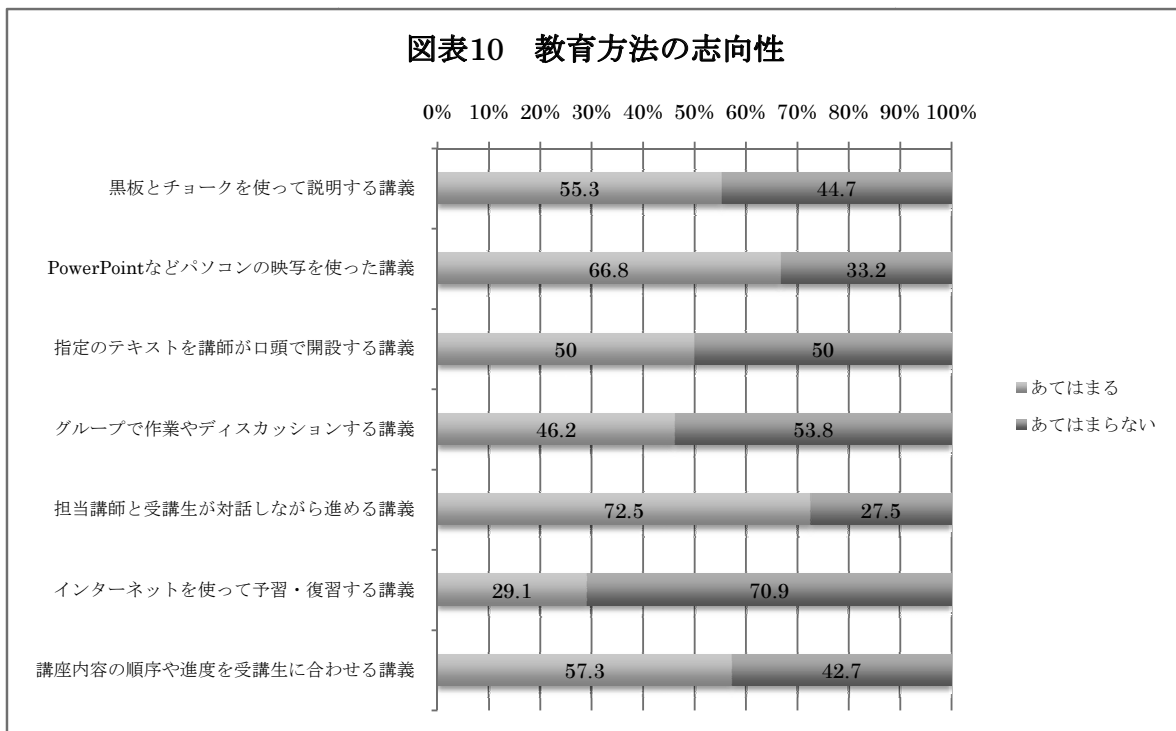




図表8は内容の理解、面白さ、進度、教材、学習形態に関する回答結果である。続く図表9は担当講師に対する印象についての回答結果である。

ほとんどが、講座・講義に対する好評価を示す数値が並んでいる。内容は面白く、理解でき、進度や資料を適切だったと判断されている。講師には熱意とともに気さくさもうかがえる。ただ、「威厳があった」(71.5%)「自分を高く評価してくれた」(56.4%)は他と比べやや低い数値となっている。

## 7. 教育方法の志向性



回答者の好む教育方法についてたずねた結果が図表10である。好みがわかる場合も多いが、「担当講師と受講生が対話しながら進める講義」(72.5%)、「PowerPointなどパソコンの映写を使った

講義」(66.8%)などが好まれる傾向がある。予習・復習にインターネットを利用する講義を好む者はやや少なめであるという結果になっている。

## 8. 大学運営の方向性に関する意識

回答者の大学運営に対する意見をうかがった結果が図表 11 である。大学運営に関して、二つの対立する方向性のどちらが望ましいかについて選択する質問方法をとった\*<sup>3)</sup>。

その方向性の一つは、図表 11 の「A」、すなわち一般教養を充実させ、社会人入学を積極的に推進し、地域に対するサービスに努力するスタンスである。反対に「B」は、先端知識を重視し、社会人参加を部分的にとどめ、特段の地域指向を持たないスタンスである。

図表 11

|     | A                            | A だと思う       |   | B だと思う       | B                          |    |
|-----|------------------------------|--------------|---|--------------|----------------------------|----|
| (a) | 一般教養的な内容を充実させるべきである          | 113<br>45.9% | ≒ | 133<br>54.1% | 職業的・専門的な内容を充実させるべきである      | ns |
| (b) | 社会人を正規学生としてより多く入学させるべきである    | 85<br>34.0%  | < | 165<br>66.0% | 社会人は大学教育に部分的に参加すべきである      | ** |
| (c) | 地域社会に対する教育サービスに努力すべきである      | 166<br>66.7% | > | 83<br>33.3%  | 教育研究面での競争力をあげる努力をすべきである    | ** |
| (d) | 日常の実用的な内容を重視すべきである           | 109<br>43.8% | < | 140<br>56.3% | 学問の先端知識を重視すべきである           | +  |
| (e) | 入試で「地元枠」を拡大し、地元の人たちを重視すべきである | 85<br>34.1%  | < | 164<br>65.9% | 入試に「地元枠」などの特別な措置は必要ない      | ** |
| (f) | 社会人受講生には特別な配慮をすべきである         | 106<br>42.0% | < | 146<br>57.9% | 社会人だからといって特別な配慮をする必要はない    | *  |
| (g) | ゼミナールなど少人数の科目も公開すべきである       | 181<br>72.7% | > | 68<br>27.3%  | 比較的大人数の授業だけを公開すべきである       | ** |
| (h) | 大学の受講料は原則無償とすべきである           | 36<br>14.4%  | < | 213<br>85.5% | 受講料はかかった経費に応じて決めるべきである     | ** |
| (i) | 他の学習機関と内容が重なることがあっても構わない     | 124<br>49.4  | ≒ | 127<br>50.6% | カルチャー教室など他の学習機関との違いを明確にすべき | ns |

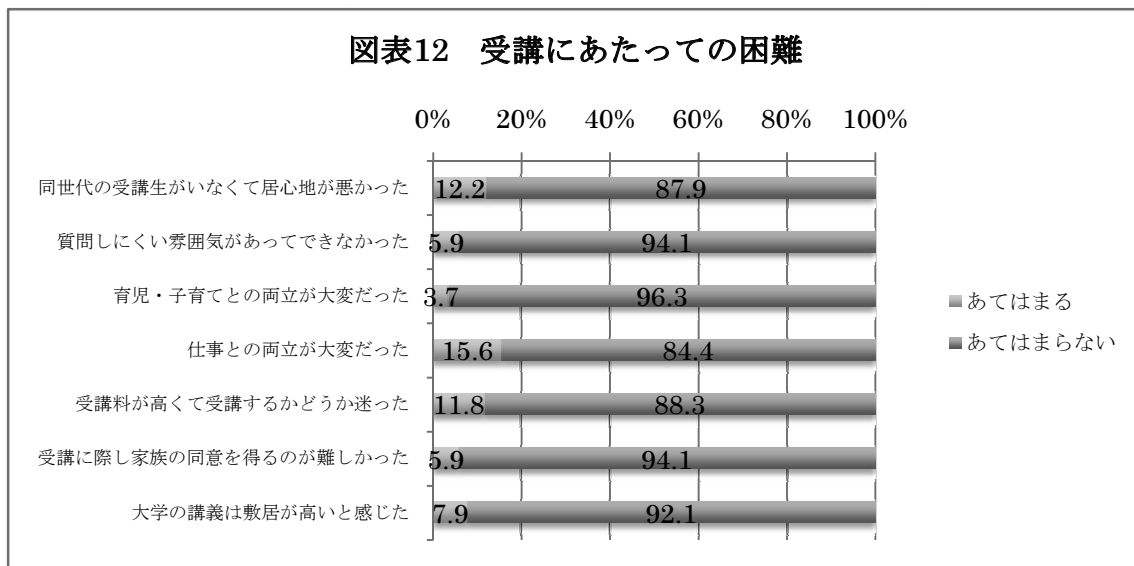
\*\* p<0.01 \* p<0.05 + p<0.1

以上の結果から、次のことが読み取れる。

- ① 方向性「B」を支持する意見：社会人は正規学生としてよりも、大学教育に部分的に参加すべきである。また、実用性よりも学問の先端性を重視すべきである。入試に「地元枠」を設けたり、あるいは社会人受講生への特別な措置はいずれも必要ない。受講料は無償とするよりも、かかった経費に応じて決めるべきである。
- ② 方向性「A」を支持する意見：教育研究面での競争力向上よりも、地域社会に対するサービスを重視すべきである。また、大学教育の開放は、大人数の授業だけでなくゼミナールなども対象とすべきである。
- ③ 有意な差が見られなかった意見：一般教養か、専門教育か。カルチャーセンターとの内容的重なりを認めるか、あるいは大学の独自性を追究すべきなのか。

これらから、「B」を指向する項目がやや多勢を占める結果となっており、ある意味で従来型の大学が持つ姿が支持されているようにも見える。ただ、②にみるように、大学開放を積極的に推進すべきである、という意見も無視できない。すなわち教育・研究の競争的環境での勝利よりも地域社会へのサービスに努力すべきであるという意見(c)、あるいはゼミナールの公開など徹底した大学開放を求める意見(g)は、今後地域に根ざした大学を目指す上で無視できない方向性であることをうかがわせる。

## 9. 受講にあたっての困難

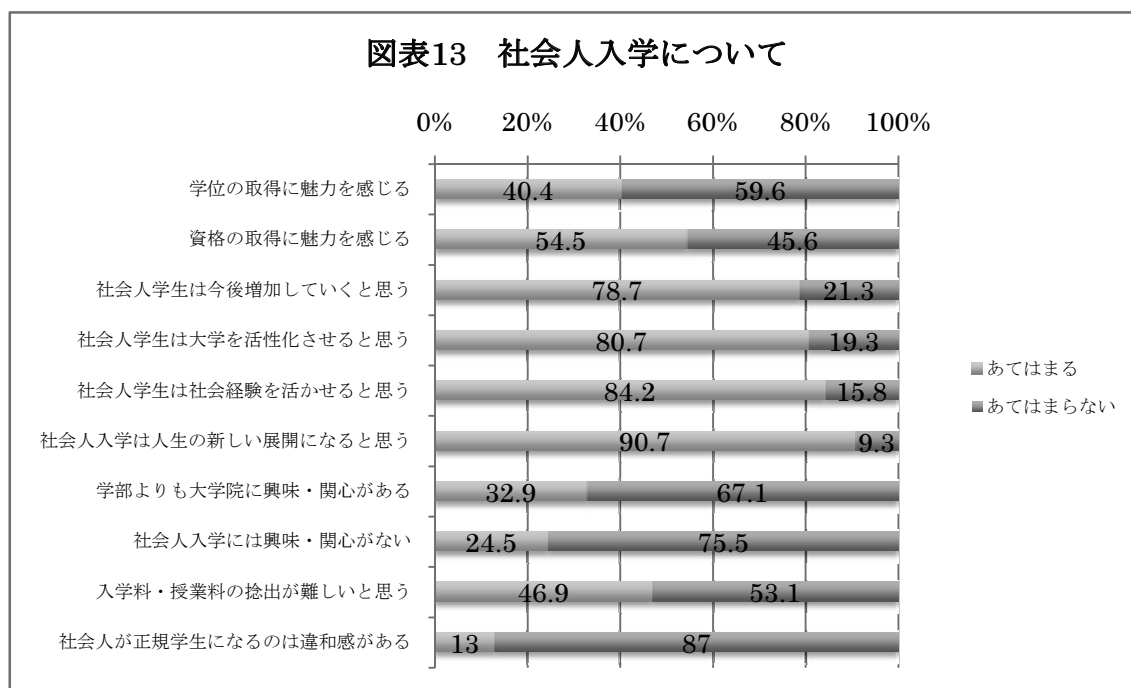


公開講座・公開授業の受講にあたり、困難となったことについてたずねた結果が図表12である。質問内容のほとんどに対して「あてはまらない」と回答しており、おおむね円滑に事業が進められたものと考えられる。

ただ、生涯学習を進める上で何らかの障壁となっていることについて、数値上の少数者を無視することは適切ではない。ここには、検討すべき論点がいくつかあるように思える。「あてはまる」が10%以上にのぼった意見として、「仕事との両立が大変だった」(15.6%)、「同世代の受講生がなくて居心地が悪かった」(12.2%)、「受講料が高くて受講するかどうか迷った」(11.8%)、がある。それぞれ適切な開講時間帯や積極的なPR活動の必要性、受講料の再検討などを促す結果となっているように見える。



## 10. 社会人入学について



図表13は、回答者の持つ社会人入学に関する考えをたずねた結果である。高い比率を示したのは、社会人入学がもたらす大学・社会人双方のメリットである。社会人入学は「今後増加する」(78.7%)、「大学を活性化させると思う」(80.7%)、「社会経験を活かせる」(84.2%)、「人生の新しい展開になる」(90.7%)などである。社会人入学に「興味・関心がない」は24.5%、「社会人が正規学生になるのは違和感がある」は13.5%にとどまり、社会人入学に対する前向きな姿勢をうかがわせている。なお、社会人入学によって生じる魅力については、「資格の取得に魅力を感じる」が54.5%、「学位の取得に魅力を感じる」が40.4%となっている。

\*\*\*

以下では社会人入学に関する自由記述の中から、そのメリットや課題についてみてみよう。まずは、社会人入学への希望についてみてみよう。

▲私は大学には行っていないので学生として通いたい憧れがありますが、もし社会人学生として入学できたとしても若い人のペース、授業についていけるか不安があります。

▲現在60代半ば、大学進学が難しい状況にあって断念した学習や専門的知識に対する欲求を今果たしたいという想いがあります。しかし、基礎的な学習を今からという意欲の継続には自信も無く躊躇しているのが現況です。

▲ここ数年富山大学が身近に感じるようになりました。大学がもっと年齢を超え、入学できるチャンスを与えてほしいです。



▲実は、今、研究してみたい課題、テーマがあります。ハードルが高いかも知れませんが、大学院へといずれ進学してゆきたいと思っております。

▲公開授業で、勉学の機会は増し、力もつくが、さらなる目標（自己満足で良い、社会的な資格は不要）として、学位には魅力を感じ、望みます。

——諸事情により若い時代に進学がかなわなかった人々にとって、多少の不安はあるものの、社会人入学という全面的参加は大きな魅力を備えるものであると思う。そのニーズにどう応えるのか、ということが現代の大学教育に求められつつある。しかしその一方、社会人入学ではなく現行の公開授業制度の方が利用しやすいという意見もあり、大学教育への「部分参加」も並行して必要であることを感じさせる。

△現在の「公開授業の」やり方に、特に不都合な点があるとは思っていません。このように、単科目ずつを、思い立ってすぐ（半年以内に）受講できる制度はとても嬉しく、又、活用しやすいです。△正規学生として学ぶ以外にも、大学と接点を持ち自身の教養や専門について学ぶ場があることをもっとアピールしたほうが良いと思う。

△興味のある授業に、聴講生の立場で、出席できたら嬉しく思います。いきなり、社会人入学はブランドもあり、かなりハードルが高いと思うのです。自分は、何を学びたいのか、資格なのか、生涯学習なのか、その中で見えてくるものがあると思うのです。まず、聴講生を無償の立場（材料費は別）で。それから、社会人学生にとって魅力があるものではないでしょうか。

△社会人入学の制度も良いことだと思いますが、現在のようなオープンクラスの制度でなければ私自身は参加（受講）出来なかったと思います。オープンクラスのような制度も続けていっていただければ嬉しく、又、安心（学ぶ機会が無くならないという点で）です。

△今回初めてopenclassに参加し非常に満足している。テレビやinternetのこまぎれの知識ではなく講師が伝えようとしている事が本当に伝わってくる。生涯学習の場として高齢者に知的challengeの場を提供してもらうのはきわめてありがたいが一步進んで社会人の入学となるとハードルは高い。

社会人の正規入学にあたり、次のような点が指摘された。まずは「社会人入学について、何も知りません」、「社会人学生になってみたいと思いますが、どうすればいいのかも正直よくわかりません。もしなつたとしてもついて行けなかったら……という不安もあります」、「社会人入学は、興味が無いと自分からは調べないと思う。もっと身近にあれば、さらに興味を持つ人が多くなると思う。また詳細や受験資格が見えないのも敷居の高さを感じさせると思う」というコメントにあるように、社会人入学の本格的な制度化はまだ途上・過渡的段階にある。

多くの社会人が入学できるような環境が整うためには、「社会の働くことに対する考え方（行政、企業 etc）が支援されないと無理」という意見がある。社会人入学を志すひとの側にも、勤め先にとどまりながら学ぶのか、それとも一時的に休職や離職をして学ぶのか、という人生上の重大な選

択がある。「社会人の方が、企業の理解を得て入学するのは、時間的にも金銭的にもキツイものがありますが、その制約の中で得るものは、大きいと思います」。社会人は「生活費等金銭面を考えると入学は難しい」ものであり、また卒業後の就職または復職が保証されなければ入学にふみきることがきわめて難しい。「卒業しても仕事がない」、「社会に出て得た経験や、修得した資格を認め、昇格あるいは地位を上げる条件にはならず、ただただ自己の品格を高める一つのステータスにすぎないのは残念」、「社会人として入学する場合、体力や費用を考えると四年間というのはかなり厳しいものがあります。例えば、国家資格や経歴等を単位と認め、3年次編入といったことができればと思います」。

このような状況の中、社会人入学のターゲットを高年齢層に絞り込んだ方がよい、という指摘もある。「働く現役世代の社会人入学は、卒業後の進路を考えると難しいと思う。高齢化社会が伸展していく中で、定年後の第2の人生をより豊かに生きていく上で、社会人入学を選択肢の一つとして考える人が増えるのではないか」、「現役（～60才）世代の人には、時間的余裕がなく、現実的には社会人入学はむずかしいが、60才～のリタイヤした人など、再チャレンジしたいと考えている人は少なからずいると思う。門戸を広げていっていいと思う」。

他方、社会人入学のための学内的条件についてもいくつかの意見があった。その内容は入学試験、教育方法・カリキュラム、就学時間帯にわたる。「どんな人を入学させるのかのラインはきちんとあった方がいい」「社会人入学者は今後も需要があり増えていくと予想されますが、社会人学生を受け入れるということは、教育方法も多様化していくと思われるので、教員のスキルアップが必要と考えます」、「社会人入学の学生のニーズにも応えることのできるカリキュラムの充実が望まれるのではないのでしょうか」、「実業界が要望するコースを作り出せるかが最初の課題になるでしょう」などの意見があった。「正規学生と同一の受講時間の確保は難しい」ために、「ネットや、夜間を最大限に利用」することも提案されている。ただ、ここで指摘されているように、どのような教育方法、カリキュラムが社会人に適合的であるのか、ということは自明ではなく、今後検討しなければならない事項に属するだろう。

以下では社会人学生が存在することのメリットについてみてみよう。

世代や経験により、学び方も様々である。そのこと自体、ほぼ同一年齢で構成される場合の授業過程に対し新しい様相を生み出していくことになるだろう。「社会人学生は、目標・目的が明確なので、一般学生の刺激となり、学習意欲がわくと思う」、「学ぶ目的をしっかりとっての入学となると思うので、一般の学生にもよい影響を与えてくれると思う」、「社会人が大学に貢献できることとして、20代の学生への社会的マナーや、現在の社会の実情、を知識だけでなく感覚として伝えられる良い点があると思う」。

少子高齢化社会の時代における大学にとって、社会人を迎え入れることのメリットは大きいといえる。「少子高齢化社会が今後進むことを考えると、大学の経営面や経済効果からも社会人入学は望ましい方向であると思います」。他方、企業・勤め先の側へのメリットも指摘されている。「社会人入学は大変重要と思っています。昨年迄〇〇会社に勤務していましたが、企業の社内教育力の低下を強く感じています。管理技術教育、理工学教育について大学に期待することが非常に大きいで

す」。このような、相互のメリットにつながるような大学開放が求められている。

## 付. 自由記述欄に記された各種意見・感想・要望

### <公開講座・公開授業>

- ・富山大学は富山県の生涯学習社会の発展に十分に寄与されていると思います。特に「公開講座」の受講は、生活の中での楽しみの一つになっています。
- ・担当の先生が、あてられてこたえた時に「〇〇」とほめて下さるのがとてもうれしく感じました。大人になってもいくつになっても、人は認められたい、ほめられるとうれしい、評価されることで励みになるものだと実感しました。
- ・社会人の教養スキルアップの意味で公開講座を受講できることに、とても感謝しております。
- ・多くの社会人（年齢差あり）の聴講生と共に学ぶことができとても有意義で喜んでいます。後期も楽しみにして頑張りたいと思います。
- ・オープン・クラスの講義をもっと増やしてほしい。
- ・社会人に対して窓口を開いて下さいましてありがとうございました。勇気がいりました。知ることのなかった生活にとびこみ、若いエネルギーを感じながら人生をリフレッシュすることができました。
- ・社会人でありながら、「富山大学」で大学生といっしょに勉強できる幸福を実感しています。夢のような取り組みに感謝しております。
- ・オープン・クラスに参加したいと思うのは、キャンパス内を学生（若い人）と交じって歩けたり、図書館その他の施設を自由に出入りし使うことが出来る、サークル活動などにもしかして参加できるなどがあるからです。
- ・学生さんを主役にして、異世代間交流の機会・場を設けていただければ有り難いです。

### <時間や場所>

- ・ロシア語講座を通年で開講してほしい。今こそロシア語に対する需要は少ないと思われるが、これからは多くなるのではないかと思われる。若い人達とのつながりは楽しいし、各々の経験の交流になる。
- ・前期と後期に分け受講の募集を行っていますが、全期通しての募集もあってよいのかと思います。
- ・夜間の講座は、富山駅前など、通しやすい場所で行ってほしい。
- ・今回の講座は土曜だったせいもあるが、一般学生がキャンパスにいないのでそれらの雰囲気を感じることもなく、一寸さびしかった。
- ・とりあえずオープンクラスを試してみたいと思っています。試聴できるのは嬉しいしいい事だと思うんですが、1回だけでなくせめて2回は試聴したかったです。たった1回では決断しにくい部分もあると考えています。
- ・開始時間をもう少し遅らせていただけるとフルタイムで働いていても参加しやすいと思う。

### <ステップアップ等>

- ・今の講座と別にもっと厳しいクラスがあったら良いと思う。
- ・PCの講座にも中級等次のステップを作っていただきたい。
- ・公開講座、オープンクラスは出席だけでなく試験も義務づけて、学生と同等の評価をすればより励みになると思う。
- ・ステップアップするような講座を企画してほしい。
- ・他にも受講したい興味ある講義があるのですが、オープンクラスに入っていないので残念です。

### <PR>

- ・他県から受講いたしました、遠隔地への公開講座の情報を提供いただけるとありがたいです(チラシなど)。ネットでも充分検索可能ですが、より開かれた大学として身近に感じ印象が良くなると考えます。
- ・この公開講座をもっと広く宣伝し、数多くの人達の受講を促進していったら、さらに富山大学が発展、また充実してくるのではないのでしょうか。社会人の参加が富山大学発展の一因となると存じます。
- ・授業料も安く、講義内容も良く、バラエティに富んでいるので生徒募集広報を市町村広報などにのせるなどの工夫がほしい。
- ・公開講座、オープン・クラスがあることをもっとPRしてほしい。私は、夜の公開講座を受けて初めてオープン・クラスのあることを知りました。引退後、再学習したい者がもっといるものと考えます。
- ・このシステムを知らない人が多いのでPRが必要だと思います。
- ・多くの人達にこの魅力を知ってほしいと思います。

### <受講料>

- ・公開講座には面白い講座があればどんどん受講したい。しかし、そうなると、受講料が高くつく。年会費制にして、会員になれば制限無しでいくらでも受講できるようにしてもらいたい。
- ・大変すばらしい先生で、毎回の受講が楽しみだったし、フランス語に対する理解が深まりました。ぜひ継続してほしいと思います。講義内容から考えると受講料7300円(10回分)はむしろ安い方と思いますが、当方無職(わずかの年金収入のみ)なので、ご配慮いただけたらと思います(5000円くらいだといいかなと思います)。

### <その他>

- ・もっと、地元富山県に関する学部の創設ができないか? 都内地区中心の農業、氷見・射水(旧新湊)中心の漁業などマンパワーの創造こそ現代日本が求めている。
- ・留学生によるネイティブ語学授業をやってほしい(学生にはアルバイト料を払って)。教授法は未熟でも、その国の若者の目線でみる有様や、文化を感じとれる。また、世代間交流もできる。

- ・公開講座では、大学生もボランティアとして講座に参加してもよいと思われる。
- ・ただ、オープンクラスに参加するだけでなく、ボランティアなど大学に貢献させていただく機会があれば、なお良いと思います。
- ・自分は性格的には新しいことに積極的ですが、そうでない方や、講座受講を希望されているか、不安を持たれている方も多いと思います。受講を検討するための、見学会などもあればよいかも知れません。
- ・今の大学はとても親切で開かれていると思う。いきなり相談しにいても、受けてくれる広さがすごいと思う。基本的に富山大学の先生はみな親切でやさしい。

## 注記

- 1) 荻谷剛彦・志水宏吉編『学力の社会学』岩波書店、2004年、p.279の質問項目を参考に作成した。
- 2) 「子どもの生活体験」研究グループ『現代教育改革の下での子ども・若者、その成長・生活・意識・集団形成』p.81を参考に質問項目を作成した。
- 3) 有意差の有無を確かめるために、js-STAR 2012を利用した。<http://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star/>